

富山県感染症発生動向速報

(2026年第22週分・5月25日～5月31日)

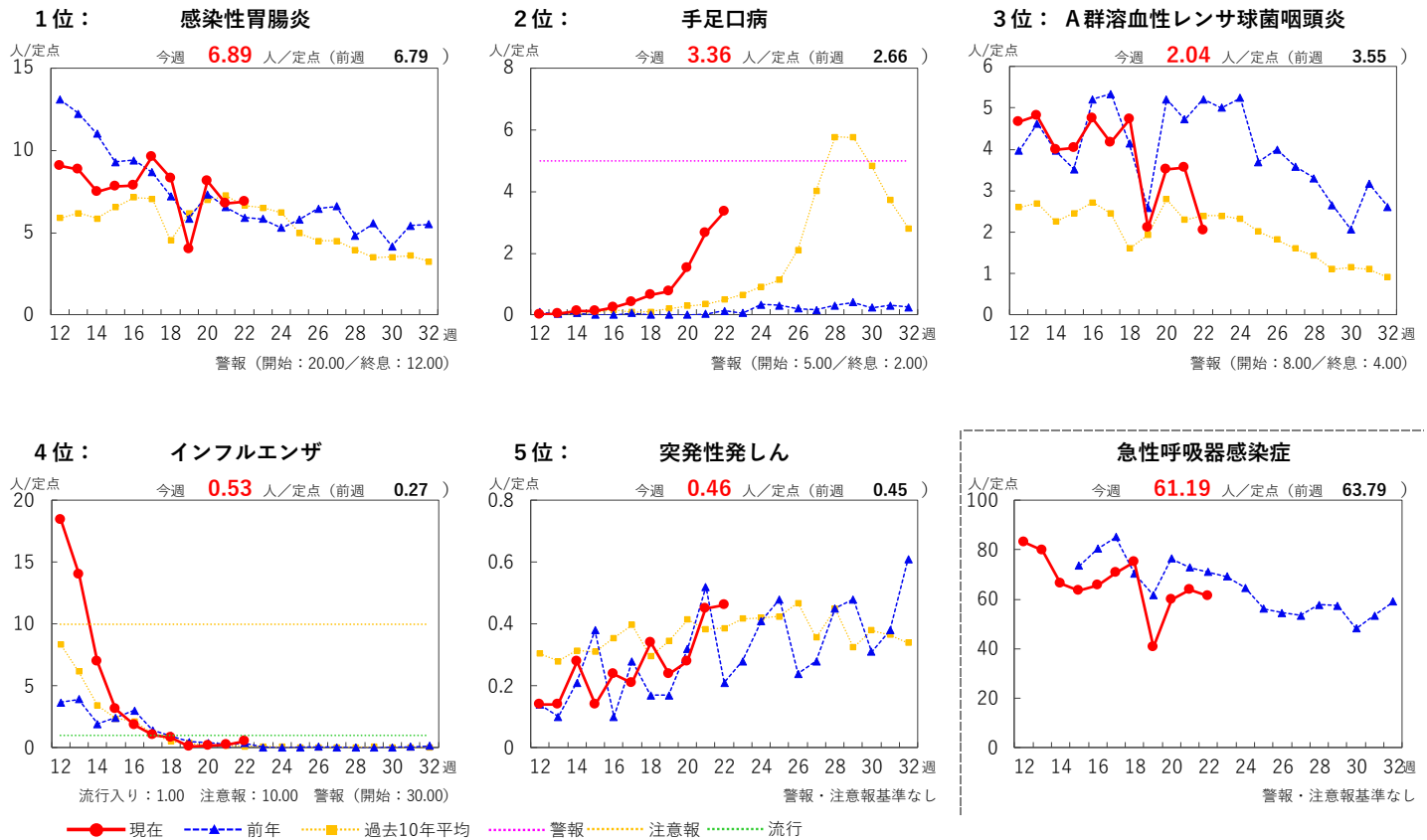
■今週の主な動向

○手足口病の報告数は、幼児を中心に増加が続いています。

手足口病の報告数は今週 3.36 人/定点となり、9 週連続で増加しています。手足口病は、1～4 歳の幼児を中心に夏季に流行する傾向があります。特徴的な症状として、手のひらや足の裏、口の中に水疱を伴う発疹がみられます。感染経路は、飛沫感染、接触感染、糞口感染（便と一緒に排泄されたウイルスが口に入って感染）が知られています。感染予防のため、おむつ交換やトイレの後、調理・食事の前には、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。
([第20週インフォメーション](#)参照)

■定点報告の感染症

今週の富山県内上位 5 疾患 + 急性呼吸器感染症 (第 22 週・5/25～5/31)



厚生センター（保健所）管内別、直近の推移：<https://www.pref.toyama.jp/1279/kansen/#a-6>

■全数報告の感染症

二類感染症 結核 2件 (①50歳代、男性 ②80歳代、男性)

五類感染症 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1件 (第21週診断分：80歳代、男性、G群)





レジオネラ症にご注意！ お風呂・加湿器は清潔に

《 インフォメーション 》

●レジオネラ症

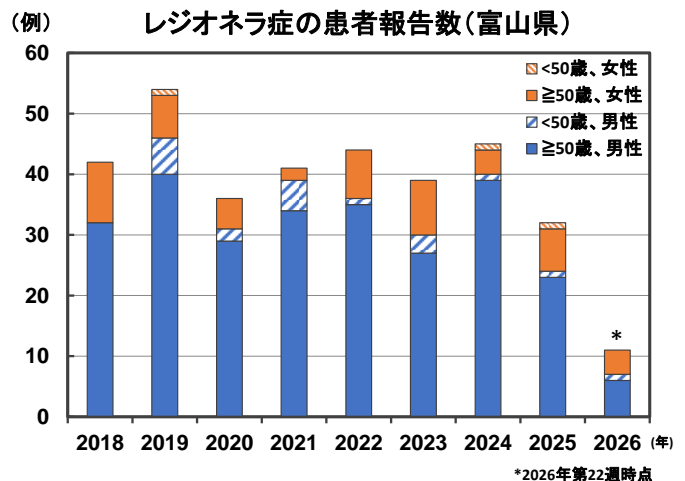
レジオネラ症は河川、湖水、温泉や土壌などに広く分布しているレジオネラ属菌を原因とする感染症です。レジオネラ属菌は20～45℃の水中で増殖しやすく、衛生管理が不十分な公衆浴場、循環式浴槽、加湿器、空調設備の冷却塔などの水環境で増殖します。これらの設備等から発生したエアロゾルを吸入することで感染しますが、ヒトからヒトへ感染することはありません。

これまでに水環境の不十分な衛生管理による集団感染事例が数多く報告されています。最近の報告事例では、2023年7月に宮城県で医療機関における集団感染（IASR 2024;45(7):112-114）が、9月に大阪府の一部地域での集積事例（IASR 2024;45(7):114-116）が報告され、いずれも空調設備の冷却塔が原因とされています。また、2024年9月には東京都の飲食店において、超音波式蒸気発生機能を有するインテリア用品を原因とする集団感染事例が報告されています（IASR 2025;46(3):68-69）。

家庭では追い焚き機能付き風呂、24時間風呂、加湿器などに付着した「ぬめり」でレジオネラ属菌が増殖しやすいため、取扱説明書に従って定期的に洗浄や換水を行い、適切な衛生管理を行うことが感染対策として重要です。

近年、全国では年間2,000～2,500例程度のレジオネラ症患者が報告されています。年間を通じて報告されていますが、特に夏季に増加する傾向があります。過去5年間の県内の患者報告数は年間32～45例で推移しており、2026年は第22週（5月25～31日）時点で11例が報告されています。患者は50歳以上の男性に多く、7～8割を占めています（図青色）。女性の報告も少数ながらあり、その多くは50歳以上です（図橙色）。

レジオネラ症の主な病型は肺炎です。2～10日の潜伏期の後に、全身倦怠感、頭痛、食欲不振、筋肉痛などを発症し、咳や38℃以上の高熱、悪寒、呼吸困難が見られるようになります。また、下痢や意識障害を起こすこともあります。治療には抗菌薬の投与を行います。レジオネラ属菌に適切な抗菌薬治療が早期に開始されないと死に至る場合もあります。このため医療機関においては、尿中抗原検出キットを用いた迅速検査を行い、適切な抗菌薬（キノロン系薬、マクロライド系薬）による治療を早期に開始する必要があります。



○感染症発生動向調査報告状況（2026年第22週 2026年5月25日～2026年5月31日）

分類	疾患	今週報告分（第22週）						累積報告数（2026年第1週（2025年12月29日）～）							
		新川	中部	高岡	砺波	富山市	計	新川	中部	高岡	砺波	富山市	計		
全数把握	二類感染症	結核	1				1	2	2		10	3	25	40	
		（再掲）結核：無症状病原体保有者を除く	1				1	2	2		3	3	17	25	
	三類感染症	腸管出血性大腸菌感染症													
	四類感染症	E型肝炎									1				1
		レジオネラ症							1	1	3	1	5	11	
	五類感染症	急性脳炎							1					1	2
		劇症型溶血性レンサ球菌感染症									3	1	5	9	
		侵襲性インフルエンザ菌感染症									2		2	4	
		侵襲性肺炎球菌感染症							2		4	2	4	12	
		水痘（入院例）							1				2	3	
多剤耐性緑膿菌感染症												1	1		
梅毒								3	2	5		8	18		
破傷風												1	1		
百日咳								1				7	8		
急性呼吸器感染症（ARI）定点（47定点）	急性呼吸器感染症（※1）	242	224	1,016	255	1,139	2,876	7,199	6,634	24,255	6,941	30,394	75,423		
	インフルエンザ	34.57	44.80	78.15	36.43	75.93	61.19	1,441	1,206	3,344	1,431	4,679	12,101		
	COVID-19	0.14	0.60		0.14	1.33	0.53								
				4	1	7	12	273	141	269	145	512	1,340		
小児科定点（28定点）	RSウイルス感染症		2	6			8	27	11	111	23	94	266		
	咽頭結膜熱		0.67	0.75			0.29	27	19	146		65	257		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2	5	17	6	27	57	111	168	1,221	202	1,146	2,848		
	感染性胃腸炎	28	23	27	8	107	193	595	465	971	255	2,842	5,128		
	水痘						2	3	15	34	9	82	143		
	手足口病		8	45	4	37	94		27	188	13	58	286		
	伝染性紅斑			1		1	2	8	3	20	4	11	46		
	突発性発しん	1		3	1	8	13	6	14	55	15	70	160		
	ヘルパンギーナ		6	1		5	12	14	9	17		12	52		
	流行性耳下腺炎		2.00	0.13		0.56	0.43								
	流行性角結膜炎			2			2	8	2	5	1		16		
				1.00			0.29								
	基幹定点（5定点）	細菌性髄膜炎											1	1	
		無菌性髄膜炎							1					1	
マイコプラズマ肺炎								8		2	2	4	16		
クラミジア肺炎											2		2		
感染性胃腸炎（ロタウイルス）										1	1		2		
入院サーベイランス（5定点）	インフルエンザによる入院患者（※2）							55	41	49	40	101	286		
	COVID-19による入院患者							18	16	7	11	58	110		

本週報のデータは速報値であり、今後、調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。

※1 急性呼吸器感染症は2025年第15週（4/7～）より開始しました。（参考：<https://www.pref.toyama.jp/1279/kansen/topics/ari/>）

※2 インフルエンザによる入院患者累計報告数は、2025年第36週（9/1～）の集計です。

全数把握
定点把握（上段：報告数、下段：定点医療機関当たりの報告数）